学校教育目標　自分から みんなで『学 び』『思いやり』『きたえる』

ふたば

共に学び　共に高め合う　子どもたち　～温かなあいさつと笑顔あふれる学校づくり～

北広島市立双葉小学校 学校だより　第５号 令和８年７月２２日 TEL373-5665

じぶんで「あゆみ」をつけてみよう　（1学期終業式のお話より）　校長 柴山 理香

本日で １ 学期が終わります。ふたばっ子の皆さんにとって、どんな １ 学期でしたか？ クラスの仲間たちと共に、勉強も運動会などの行事も、全力で取り組んだ日々だったと思います。

特に、「自分から進んであいさつ」をする子供たちが増え、玄関前では元気なあいさつが響きわたり、毎朝一日の気持ちの良いスタートができています。

また、運動会をはじめとする行事や、各学年の活動でも仲間と協力しながら、他学年との活動でも、上級生が下級生を温かく支える姿も見られ、全校児童の成長ぶりが感じられます。本当に、よく頑張りました。

今年度から「通知表（あゆみ）」の発行を年2回（1回目は10月上旬）となっており、本日は配布しません。そこで、終業式のお話の中で、全校児童に自分で1学期を振り返ってもらうこととしました。私が頑張ってほしいと思っていた10つの内容で、そのワークシートを、本日配布しました。それぞれの内容について、ただ「よくできた」「できなかった」だけではなく、「〇〇の時はできたけれども、●●の時はできなかった」と、もし出来ましたらお子さまが記入したものを保護者の方とお話ししながら、いっしょに今学期を振り返って頂ければ幸いです。 2 学期のスタートにも活用したいと考えています。ちなみに私が一番「よくできた」が多ければいいなあと思っているのは、⑩の １ 学期笑顔で過ごすことができた。という項目です。どうだったでしょうか？ できていなかったことは、これから意識してほしいところです。

学期末には、担任との個人面談にお忙しい中ご来校頂き、ありがとうございました。 お子様の様子について担任と共有し、健やかな成長に向けての一助となれば幸いです。学校で見せる姿とご家庭での姿は必ずしも同じではなりません。心配なことがあれば、その都度ご連絡いただきますよう、よろしくお願いいたします。

明日から 32 日間の夏休みに入ります。夏休み中は体調を崩さないよう規則正しい生活を心がけ、夏にしかできない体験も大切にしながら、計画的に勉強と体力づくりを続けましょう。 毎日何か継続して取り組むようにしてほしいと願っています。

最後になりますが、保護者・地域の皆様、今日まで子どもたちの成長を温かく見守り続けていただき、ありがとうございました。暑さも厳しい日々が続きますが、皆様も熱中症等体調にはくれぐれも気をつけてお過ごしください。 8 月24日（月）に元気な笑顔で再会できることを、楽しみにしています。

５年宿泊学習「日高青少年自然の家」

７月１日(水)、２日(木)、５年生が宿泊学習に行ってきました。日高青少年自然の家で、自然を満喫し、絆が深まった２日間でした。

天候を心配する中での出発でしたが、１日目は、沢登り、キャンプファイヤーなどを楽しみ（残念ながらボディラフティングは川の水量の関係でできませんでした)、バスレク、食事（バイキング)、お風呂など一つ一つがとても楽しそうでした。

２日目のひだからハンター（日高のお宝さがし）は北海道らしいさわやかな初夏の日差しの中、友達と協力しながら取り組めました。

自然の家で過ごしたり、アクティビティを楽しんだりする中で、マナーやルールを守ること、自分たちで考え、行動することは５年生にとって大切な学びの機会となりました。５年生の２学期の活躍と、最高学年に向けての成長を期待しています。

また、夏休みが明けて９月には６年生が修学旅行に行きます。すでに準備がスタートしています。どんな学びを持ち帰ってくれるのか、今から楽しみです。

平和への思い
～折り鶴集会、被爆体験伝承者講話、子ども大使交流事業～

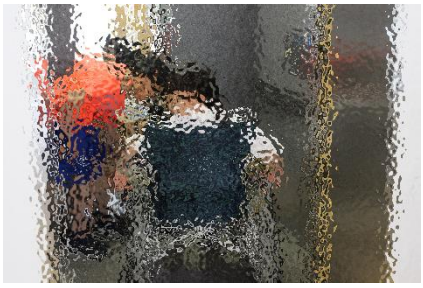
６月２６日には折り鶴集会が行われました。折り鶴集会は、もう二度と戦争や争いが起こらないようにとの願いを込めて鶴を折り、平和について考える集会です。１～６年生までの縦割り班に分かれ、一人一人が平和への思いを込めて丁寧に鶴を折りました。「ふらっと双葉」の一環としても、多数の方にご参観を頂きました。子どもたちが折った鶴は、広島県にある平和記念公園に届けられます。毎年、未来

を担う子どもたちが平和の大切さに気付き、祈りを形にする大切な機会となっています。

７月１５日には被爆体験伝承者講話が６年生対象に行われました。広島県から講師の甲斐晶子さんをお迎えし、戦争と原爆についてお話をいただきました。講話では、戦争が続いていた当時の日本の様子や、原爆投下前の広島の街並み、そして講師ご自身の家族がどのような状況にあったのかが語られました。また、被爆者の手記をもとに、原爆の凄まじい威力や甚大な被害、原爆症の苦しみについても詳しくお話いただきました。現在も世界各地で戦争が続いている現実をふまえ、平和な世界を築くために私たちに何ができるのかを問いかける内容でした。甲斐さんは、常に子どもたち一人一人に語りかけるように優しく、丁寧に話してくださり、子どもたちも真剣な表情で聞き入っていました。講話後には多くの質問や感想が出るなど、主体的に平和について考える姿が見られました。

８月３日から６日にかけて、北広島市の小中学校の代表児童生徒が姉妹都市である東広島市を訪問し、交流を通じて友好を深めます。訪問中には平和記念式典にも参列し、平和の尊さについて学びます。本校からは６年生の羽山環さんが「子ども大使」として参加し、双葉小学校の代表として大切な役割を果たしてきてくれます。また、８月 18 日からは東広島市からの「子ども大使」を受け入れることになり、19 日には６年生と児童会書記局が歓迎集会を行う予定です。

４年総合「福祉」～高齢者疑似体験、車いす体験～



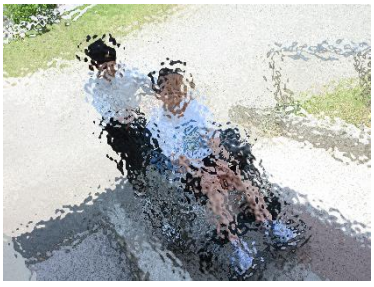
４年生は総合で「福祉」について扱い、学習の中で２つの体験をしました。

「高齢者疑似体験」では、視界が狭い、耳が遠い、関節が曲がりにくい…など、高齢者が感じているかもしれない世界を疑似体験しました。

「高齢者疑似体験」に続いて「車いす体験」をしました。学校の中や周りでも「届きそうで、なかなか届かない…。」「小さな段差でもなかなか越えられない。」そんな場所がいくつもあり、車いすで生活している方にとって、どういった場所が生活しにくくて、どうすれば生活しやすくなるのかを考えるきっかけになったようです。

安心・安全に手を引いたり、車いすを押したりする際の心がけやコツなんかも教えていただきました。

今回学んだことと子どもたちのやさしさが、困っている人に対する気づきと行動につながることを願っています。



児童生徒の相談窓口について

先日、道外の複数の教員が児童を盗撮し、画像などをＳＮＳ上のグループで共有したとして逮捕される事件が報道され、全国に大きな衝撃を与えました。

本校では文部科学省や教育委員会の指示の下、校内の緊急点検をした結果、カメラ等の機器が発見されなかったことを関係機関に報告するとともに、児童生徒に対する性暴力等行為の防止について、改めて全教職員の意識の徹底を図りました。

また、本事案に関する相談等の対応者を教頭　内藤裕一および養護教諭　阿部美紀子　と定めるとともに、引き続き児童がいつでも安心して相談できる体制を整えていることをお知らせします。相談しやすい教職員にまずご連絡いただいても構いません。

この他、下記の相談窓口もご利用できることをお知らせします。

◇北海道教育委員会

・「子ども相談支援センター」

http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssa/ijimedenwasoudan.htm

電話相談：0120-3882-56

メール相談：sodan-center@hokkaido-c.ed.jp

本校では今回の全国的な事案を重く受け止め、児童の安全安心を最上位に教育活動を推進してまいります。引き続き、本校の教育活動へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。